
魔人Aの穏やかな日々

ひまなひと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

廃人Aの穏やかな日々

【Nコード】

N92770

【作者名】

ひまなひと

【あらすじ】

とある青年の送っている、人には言いにくい日常の中で起こっていく出来事の中での、青年の成長？物語です。

大概の人にはどうして捨てることのできない掛け替えのない大切なものがある。

家族、恋人、親友、仕事、金、……一般の人にはこの辺があてはまるだろうか？

しかし中にはこういったものをあまり大事に思えない奴もいる。オレもそういう人種の一人だ。彼らの大切なものは私にとっては重い枷以外の何物でもない。特に家族つてやつは難儀なもので、己が生まれてきた以上、必ず産んだやつがいて、少なくともそいつが死なない限りは家族あるいは、血縁の者が居るということになる。

私の家族は実に“いい人”である。これは皮肉ではない。客観的に言つて、彼らは大切にすべき素晴らしい人達である。だから余計に性質が悪い。いやな奴らだったらどうでもいいと捨ておけるのに。

なんで彼らからオレのような“異物”ともいえる人種が生まれるのだろうか？

フツ、ままならないものである。

今だつてそうさ。こうしてオレはこんなことをしているのだから。

今オレはランニングをしている。前を走っている奴の日課だからだ。30メートルくらい前にいるだろうか。まったく部活が終わった後だというのによくやるものである。

さすが運動部だけあってあいつは結構速い。しばらく走ったところでやつと目的の区間についた。この林道につくのを待っていたのだ。オレは一気に距離を詰めていった。あいつもそろそろ気づくだろうか？

案の定あいつはオレが追いついたところで振り返つてこっちを見たので、やつの首を抑えつけた。そこでオレはやつの顔めがけて殴

りかかった。

相手が反応するように加減して打ち込んだのがよかったようだ。やつが顔を腕でガードしようとして空いた鳩尾に、本命をぶち込んで相手の行動力を奪った。

その後、オレは後ろに回り込んで首を絞めあげた。できれば素手でも思ったが、相手の抵抗も結構強く、体重も重いので、振り切られる恐れがあった。しかしこちらとしては逃げられる訳にはいかない。

振り切られてしまう前に片付ける必要があったので、オレは腰に仕込んであったナイフを取り出し心臓めがけて思い切り突き刺した。骨の合間をくぐって研いだ金属片がこいつの体に入り込み、命の灯をかき消す手ごたえを確かに感じた後で、ナイフを引きぬき、脈を探り、こいつの鼓動が止まっているのを確認した。その後で、着ていたジャージと手袋をリュックに入れ、ナイフの血糊を拭き取り、近くに人の気配がないのを確認してから、走ってその場を後にした。

嫌なものだと思いつつも、この胸のどこかには確かな充足にも似た感情が1ミリグラムほど混じっているのを感じる。だからオレは“異物”なのだ。

「まったく。難儀なもんだぜ」

苦笑いをしつつ、オレは走るペースを上げた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9277o/>

廃人Aの穏やかな日々

2010年11月15日03時55分発行